
fose2005.sty 使用サンプル

An example of use for fose2005.sty

磯崎 秀樹* 徳川 家康†

Summary. [example!!] In multi-agent environments, time and belief play essential roles. Time interacts with belief in two ways: people believe temporal facts and belief itself changes over time. This yields a two-dimensional map of time with persistence along each dimension. Since beliefs may themselves refer to other beliefs, we have to consider a statement referring to an agent's temporal belief about another agent's temporal belief. Such a nested temporal belief statement yields a multi-dimensional persistence map.[example!!]

1 ワークショップの目的

情報技術の普及がソフトウェアの適用範囲をますます広げていくいま、ソフトウェアを社会基盤となる知的資産として活用するため、ソフトウェア工学はさらに格段の進歩をとげなければなりません。FOSEはこの挑戦に向けてさまざまな基礎技術確立することをめざし、研究者・技術者の議論の場を提供するものです。

2 ワークショップ開催概要

FOSE2005 [5] は以下の要領で開催する予定です。

日時 2005年11月10日(木)~12日(土)

開催場所 作並温泉 ゆづくしの宿「一の坊」

〒981-3431 宮城県仙台市青葉区作並字長原3

(仙台駅からバスで60分、もしくはJRで作並駅まで27分、作並駅より送迎バス)

TEL: 022-395-2131, FAX: 022-395-2435

<http://www.ichinobo.com/sakunami/top.html>

主催 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会

3 論文募集

3.1 一般講演論文の募集と応募方法

ソフトウェア工学の基礎技術に関連する論文を募集します。基礎技術の応用方策や、実践からの基礎技術の抽出を提示するものも含みます。応募された論文はプログラム委員による査読により採否を決定します。なお、本ワークショップの予稿集は近代科学社よりレクチャーノート/ソフトウェア学シリーズ [1-4] の書籍として出版される予定です。

専用の \LaTeX スタイルファイルを使用し、フルペーパー(8~10ページ)またはショートペーパー(6ページ以下)として作成して下さい。Wordなど、 \LaTeX 以外で作成したPDFファイルによる投稿も受け付けます。ただし、こちらでは \LaTeX 以外のスタイルは提供しませんので、お手数ですが、サンプルファイルを参考にFOSEの \TeX スタイルと同じ書式で論文を作成してください。

作成された論文原稿はPDFファイルにして fose2005-chari_AT_sde.cs.titech.ac.jp

*Hideki Isozaki, NTT 基礎研究所

†Ieyasu Tokugawa, 江戸幕府

宛¹に電子メールで応募して下さい。なお、電子メール本文(プレインテキスト)には以下の情報を記載して下さい。

- 著者代表の氏名, 所属とその所在地,
- 著者代表の電子メールアドレス, 電話番号, ファックス番号
- フルペーパー・ショートペーパーの別.

3.2 主要スケジュール

講演論文締切: 6月27日(月)

審査結果通知: 8月8日(月)

印刷原稿締切: 9月9日(金)

4 書式に関して

4.1 ヘッダとフッタ

奇数ページのヘッダ(ただしカバーページを除く)には英語論文タイトル(長い場合は省略タイトル可)が来ます。偶数ページのヘッダには「FOSE2005」が来ます。フッタは空となるように設定してください。

4.2 箇条書き

- 項目 1
- 項目 2
 - 項目 2-1
 - 項目 2-2
- 項目 3
 1. 項目 1 (項番付き)
 2. 項目 2 (項番付き)
 3. 項目 3 (項番付き)
 - (a) 項目 3-1 (項番付き)
 - (b) 項目 3-2 (項番付き)

4.3 表と図

表 1 表の例

| | | |
|----------|------------------|----------------|
| FOSE2002 | ソフトウェア工学の基礎 XIII | 杉山 安洋、藤田ハミド 編 |
| FOSE2003 | ソフトウェア工学の基礎 IX | 井上 克郎 編 |
| FOSE2003 | ソフトウェア工学の基礎 X | 鯉坂 恒夫、満田 成紀 編 |
| FOSE2004 | ソフトウェア工学の基礎 XI | 野呂 昌満、山本 晋一郎 編 |



図 1 図の例

謝辞 本フォーマットを作成して頂いた方々に感謝します。また、L^AT_EX2e 用のフォー

¹__AT__ は@に直してください

マットを作成して頂ける方がいらっしゃいましたら，プログラム委員長までご連絡ください。

参考文献

- [1] 杉山安洋, 藤田ハミド 編: ソフトウェア工学の基礎 XIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2001*, 近代科学社, 2001.
- [2] 井上克郎 編: ソフトウェア工学の基礎 IX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2002*, 近代科学社, 2002.
- [3] 鯉坂恒夫, 満田成紀 編: ソフトウェア工学の基礎 X, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2003*, 近代科学社, 2003.
- [4] 野呂 昌満, 山本 晋一郎 編: ソフトウェア工学の基礎 XI, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2004*, 近代科学社, 2004.
- [5] 第 12 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, <http://www.sde.cs.titech.ac.jp/fose2005/>, 2005.